JNSA ワーキンググループ紹介

社会活動部会
医療 IT ワーキンググループ

ワーキンググループリーダー：新　善文（フォーティネットジャパン合同会社）

このところ、医療機関がサイバー攻撃を受け、診療業務に影響がでたといった報道が見られるようになり、これらの事例を引用して、医療機関が狙われているとかサイバーセキュリティ対策が遅れているといった文脈で医療機関向けの広告もよく見るようになりました。しかし、実際に報告書を読み、医療機関の方々の話を聞くと状況はそんなに単純なものではないことがわかってきました。

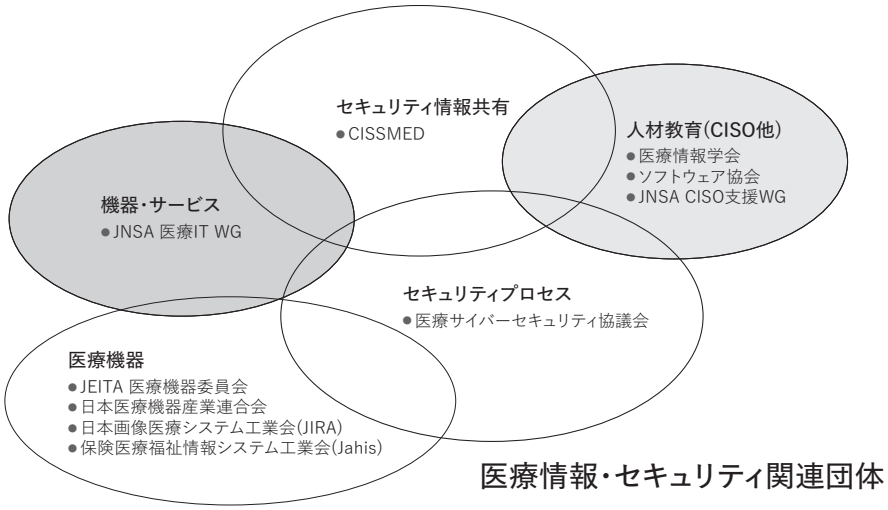
医療機関では、会計システムだけでなく、電子カルテシステムの普及、IoT 医療機器というかネットワーク接続しデータを記録や操作できるような機器の増加、PCやタブレット端末の利用、また薬局との連携、遠隔医療、データ活用の試みとネットワークで接続されていることを前提に作られているサービスもでてきており、医療 DX が推進される中で医療情報・IT システムの重要性が高まってきています。

そこで各省庁や医療関連団体もサイバーセキュリティやBCPに関するガイドラインを出し、改定を重ねてセキュリティ対策を促したり、診療報酬改定で医療 DX 加算をつけたりといった施策がおこなわれています。

しかし、各種ガイドラインの内容は、注意するポイントがまとめられているものであり、医療機関における医療情報・IT システムの構築・運用の実態とへだたりがあると言わざるを得ません。特に業務委託など従来のものを踏襲しているため、サイバー攻撃などセキュリティに対する情報システムの運用や委託といった課題があります。

さらに医療機関の経営状況は先端医療への取り組みや高齢化、COVID-19の影響等、様々な要因のため非常に厳しく、医療情報・IT システムの構築・運用には限られた予算での取り組みが求められています。

このような状況の中で医療機関におけるセキュリティの課題を解決するために、私たちも何かできることはないかということで、民間のベンダー、システムインテグレータなどネットワークセキュリティに携わる組織の集まりであるJNSAで、医療情報・IT システムに関連して現実的な対応や関係各所との調整を行う必要があると考え、医療情報・IT を扱うワーキンググループを立ち上げることにしました。名称を「医療 IT ワーキンググループ（WG）」としました。



実はこのWGの名称を決めるところから、医療業界との用語の違いを思い知らされました。「医療情報」というのは電子カルテで扱うような情報のことを示すのだそうです。また「ネットワーク」というのは地域医療ネットワークといった医療機関の連携を示すということで、誤解を与えないように「医療情報」、「ネットワーク」を避けた結果「医療IT」という名称を使うことにしました。

このワーキンググループの活動目的は、以下です。
「医療システム（電子カルテ、ネットワーク、医療機器などを含む）と医療機器のセキュリティや安全性の確保のために、機器、システム、運用といった観点からどのような技術や体制、運用をするとよいかを整理し、その実証実験などをおこないながら、実システム・実運用への適用を目指していくことを目的に活動する。」

医療ITワーキンググループ（WG）では、毎月第3金曜に定例会を開催しています。毎回、JNSA顧問である京都大学医学部附属病院の黒田先生に参加いただき、医療現場の現状を共有し、サイバーセキュリティ業界とのギャップを埋めようとしています。また、この会議の中で勉強会を開催しており、医療におけるサイバーセキュリティについて考える有志の集まりであるCyber Intelligence Sharing SIG for Medical （CISSMED）や一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）、経済産業省サイバーセキュリティ課に組織の紹介や医療分野での活動について話をしていただいています。

今後、医療情報学会、CISSMED等の医療情報・IT関連団体と連携してのイベントの企画や参加といった活動を計画しています。
ご興味のある方は、ぜひワーキンググループへの参加をお願いします。

※事務局注：ワーキンググループへのご参加は原則としてJNSA会員企業ご所属の方に限らせていただいております。